令和5年度　全国学力・学習状況調査の結果について

1　全国学力・学習状況調査の概要

本調査は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善をねらいとし、全国の中学3年生を対象として、本年度4月18日（火）に国語・数学・英語・の3教科と英語「話すこと」について実施されました。調査内容は、主に「教科に関する調査」と「生活習慣や学習環境に関する調査」です。

2　今回の調査から　各教科　領域ごとの結果

【国語】

・知識や思考力における問題において、全体的に昨年度より高い相対値であった。

・「情報の扱いに関する事項」において特に高い正答率であった。

【数学】

・全体として昨年度よりも高い相対値であった。

・「関数」「数と式」「図形」おける領域の正答率が高かった。

・「データの活用」の領域についての正答率に課題があった。

【英語】

・「聞くこと」「書くこと」における領域の正答率が高かった。

・「読むこと」の領域については課題があった。

【英語（話すこと）】

・全国的に学校的に極めて正答率が低い結果であった。

・1問正答している生徒は複数問正答している割合が大きい。

【生徒質問用紙と正答率との関係性】

・「自分には良いところがある」と答えた生徒は全体の85％を超え、高い数値である。

・「学校に行くことが楽しいと思いますか」の質問に対して、当てはまる、どちらかというと当てはまると答えた生徒は全体の90％を超えている。

・学習塾や家庭教師で学習している生徒の割合が全国平均に比べ多い。

・授業でのタブレット活用の比率が全国に比べて非常に高い。（昨年度同様）

・家庭学習において、タブレットやICT機器を活用して勉強している時間が「30分より少ない」と答えた生徒の正答率が1番高い。

・家で計画して学習に取り組んでいる生徒が、各教科の正答率が高い。

・「1，2年時の授業において課題解決に向け、自分で工夫して取り組んでいた」と答えた生徒の各教科の正答率が高い。

3 成果と課題

本校国語科の努力目標は「話すこと」であり、スピーチに力を入れているが、それを磨くために「書くこと」や自分で考えたことを文章化し、伝えるための表現力を身につけようとした。今年度はその成果が見られている。一方で「読むこと」に課題が見られるので、文章を適切に読み取り、論理や物語の展開の仕方を捉えること、見方や考え方について、今後も研究を重ねる必要がある。

数学では、数と正式の情報や文章より結果を求める問題への正答率が87%と、基礎的な力を身につけている生徒が多い。課題として、統計用語と統計における数値が示す意味を理解することと、説明問題や証明問題を無回答する生徒の割合が高いことであり、数学的な力だけではなく国語などの「読み取る力」など教科横断的な力を要すると考える。

英語では小学校からの継続的な英語教育の成果もあり、リスニングの力が高まっている。全体的な成長については松戸市で行っている TESOL という教授法を単元ごとに絞ってテストを行っていることも要因であると考える。「話すこと」については、考えたことを即時に英語に変換させて言葉を発せる力を身につける必要があり、授業の中でも会話を中心とした学習を大切にしたい。

4 その他

(1)基本的生活習慣の確立は学習の土台になります。本校生徒は基本的生活習慣が確立している生徒が多いので、今後とも「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣を大切にするようにお願いします。

(2)学力は、国語、数学、英語の3教科だけで測定できるものではありません。文部科学省は本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であるとしています。本校といたしましても、今後この趣旨を踏まえて、調査結果を分析し、課題の明確化と改善策を検討して、指導の充実に努めてまいります。

(3)3 年生につきましては、個別の調査結果を別紙「個人票」で配付しています。「個人票の見方」についても裏面で掲載していますので、課題の確認や今後の学習に活用して頂ければと思います。